

「フッ化物洗口の実施に向けた職員説明会」における質疑応答集その2

日 時：5月16日（月）14：30～16：00

場 所：栗山町立角田小学校（千葉 潤校長 夕張郡栗山町角田47番地）

講 師：北海道岩見沢保健所 秋野憲一 先生

本会出席：永山先生・西村仁先生・木村

*（ ）は補足もしくは注釈

*太字・黒字は質問事項、意見、要望

*青字は回答

*空欄は不明

1. フッ化物洗口中に誤って飲み込んでも大丈夫なのか

大量に誤飲しなければ問題ないが、「誤飲」したという精神的ショックを起こすことがあるかも知れないので、洗口実施にあたっては監督者がいた方が良い。

2. むし歯罹患率のデータで1.2本と1.3本とでは有意差はあるのか

母数が大きいのので、その差はある。

3. 栗山町のう蝕有病率が高いのは何故か

食習慣や家族形態によるとも考えられる。

4. フッ化物洗口の効果は何時頃でるのか

今回実施する1年生が卒業するころ（6年後）にデータで分かる

5. 学校日程の中で洗口に時間を取るの難しい。他の学校はどの時間帯に行っているのか。

洗口後30分は飲食を控える決まりなので、それを避ければ何時でも良い。

各学校の事情にそくして行っている。

6. 何歳頃まで洗口を行うのか

第2大臼歯が萌出するころまで行うのが良い。

7. フッ化物はエナメル質の結晶構造にどのように働くのか

8. 歯髄からエナメル質表層に向かい滲出液が出て、歯の表面の汚れを取ると聞いたことがある。フッ化物を応用することで歯が硬くなると、その作用が損なわれるのではないか。

歯髄からの滲出液については聞いたことがない

9. 何故歯科医院で行わないのか、学校で行う理由が分からない

集団で行う理由は継続性にある。希望者全員が行うことができるので健康格差が是正される。

10. 栗山町では子どもの医療費はただである。事故が心配だし、実施の時間がとれない。歯科医院でやるべきだ。

個人で行うと継続性に疑問が生じる。(あまりながく続かない)

11. フッ化物先進国のアメリカなどでは洗口を中止する傾向にあると聞くがどうか

間違った情報(フッ化物反対意見)に行政が対応しきれなかった場合、住民投票などで中止となった事例は確かにある。しかし、そのアメリカでは70年以上もフッ化物洗口を行っており、いわゆる「薬害」という健康被害は出ていない。

12. 滝川では20年以上前からフッ化物洗口を行っていると聞くが効果のほどはどうか

滝川では幼稚園・保育園のみを対象として行ってきたので高学年のデータはない。

13. フッ化物洗口は何時まで行うのか

町としては指定校が解除されても継続的に行う。

14. 洗口は任意とあるが、どの部署が窓口なのか

教育委員会が対応する

15.フッ化物だけ行くと、それに頼り歯ブラシがおろそかになるのではないか。
児童・生徒に対して衛生教育を十分に行う。

今回の説明会に参加しての感想

学校（教育の場）でのフッ化物洗口は、単にう蝕予防だけではなく、学校歯科保健教育の一つの教材であるという説明をもう少し詳しくしてはどうかと感じた。

特に保護者説明会にあたっては、フッ化物洗口に限らず、学校で行う健康診断は健康管理はもとより、それを題材として健康教育につなげるという目的を合わせ持っている点を説明する必要がある。

以上

平成 23 年 5 月 16 日 作成 岩歯広報部 木村